

連載⑤

戦後を彩った
「ある現場」

撮影／井上和博

統一教会が金集めで掘った「日韓トンネル」

統一教会が、日本と韓国を繋ぐ海底トンネルを掘っている。カメラマンの井上和博がその話を聞いたのは、'88年のことだった。ちょうど、「靈感商法」が社会的な批判を浴び、統一教会の動向が注目されてきたときである。井上も脱会者から話を聞いたたり、統一教会のセミナーに潜り込むなど取材を続けていた。知り合いになった統一教会の幹部に、トンネルを見せてくれ、と頼んでみたがなかなか色良い返事が貰えない。やっと取材許可が下りたのは、秋になってからだだった。

場所は、佐賀県鎮西町。玄界灘に面した港町で、海の方こうにはかすかに壱岐の島影が見えた。工事現場には、「国際ハイウェイ建設事業団日韓トンネル」の看板が掲げられ、コンクリート壁にボックリと穴が開いている。ここにあるのは調査斜坑で、すでに20メートル掘り進められているということだった。

「日韓トンネル」は、佐賀から壱岐、対馬、そして韓国の巨済島を経由して、釜山までの全長約200キロを海底トンネルで結ぶという計画である。長さは青函トンネルの約4倍で、完成予定は20年後。全工費約10兆円の巨大プロジェクトだという。統一教会の文鮮明教祖が、「世界のいたる所に1日以内で往復できるようになれば、それだけ地上天国の実現は早い」との趣旨で提唱した「国際ハイウェイ構想」の第一歩が、この「日韓トンネル」だった。もちろん本格的に始めるなら、国家的プロジェクトとして取り組まなくては行かない。が、このときは調査のための試掘ということで、民間工事として行われていたのである。工事現場の土地は、統一教会の所有地だった。

「青函トンネルの現場が家の近くだったんで、この仕事を始めたんだ。もう20年トンネルを掘ってる」「トンネルの中はいつもお天気だから、工事は順調だよ。自分で掘ったトンネルを、車で通るのが嬉しいね」「トンネルの中は寒いから酒を飲んだ。3合で1升分酔うよ」

「トンネル屋」の3人は屈託なく笑った。3人とも工事に参加するために、統一教会に入信したという。が、井上はいくら「日韓トンネル」の説明をされても、夢物語のように聞こえた。「ああ、これは金集めのための工事だ」と思った。

文鮮明教祖が、韓国のソウルで統一教会（世界基督教統一神霊協会）を設立したのは'54年。日本でも'64年に宗教法人の認可を受け、原理運動が始まった。その後、日本は統一教会にとって最大の資金源になる。'75年からの10年間で、日本から文鮮明教祖のもとに送られた金は20

00億円に上るといふ。その殆どが、信者たちがインチキ難民カンパや珍珠売り、そして印鑑、壺、多宝塔などの「靈感商法」で集めた金だった。そして、「日韓トンネル」。当時の信者たちは、「靈感商法」で土地を売らせて献金してもらうときなど、日韓トンネルに使われると説明した」と証言している。やはりこれも、金集めの方だったのである。

その後、統一教会が力を入れ始めたのは、参加者がひとり100万円の献金を求められる「合同結婚式」だった。'92年、桜田淳子らタレント信者が参加して話題を集めたときの参加者は3万組（統一教会発表）。合同結婚式はさらに、'95年、'97年、'98年と立て続けに開催されている。手を替え品を替えの金集めである。

もちろん、「日韓トンネル」の工事とはつくの昔に中止された。いまでは、工事現場は廃墟同然になっているという。

連載⑤

戦後を彩った
「ある現場」

撮影／井上和博

統一教会が金集めで掘った「日韓トンネル」

統一教会が、日本と韓国を繋ぐ海底トンネルを掘っている。カメラマンの井上和博がその話を聞いたのは、'88年のことだった。ちょうど、「靈感商法」が社会的な批判を浴び、統一教会の動向が注目されていたときである。井上和博が注目を聞いたとき、統一教会のセミナーに潜り込むなど取材を続けていた。知り合いになった統一教会の幹部に、トンネルを見せてくれ、と頼んでみたがなかなか色良い返事が貰えない。やっと取材許可が下りたのは、秋になってからだった。

「日韓トンネル」は、佐賀から老岐、対馬、そして韓国の巨済島を経由して、釜山までの全長約20キロを海底トンネルで結ぶという計画である。長さは青函トンネルの約4倍で、完成予定は20年後。全工費約10兆円の巨大プロジェクトだという。統一教会の文鮮明教祖が、「世界のいたる所に1日以内で往復できるような世界に、それだけ地上天国の実現は早い」との趣旨で提唱した「国際ハイウェイ構想」の第一歩が、この「日韓トンネル」だった。もちろん本格的に始めるなら、国家的プロジェクトとして取り組まなくてはならない。が、このときは調査のための試掘ということ、民間工事として行われていたのである。工事現場の土地は、統一教会の所有地だった。

「青函トンネルの現場が家の近くだったんで、この仕事を始めたんだ。もう20年トンネルを掘ってる」「トンネルの中はいつもお天気がいい、工事は順調だよ。自分で掘ったトンネルを、車で通るのが嬉しいね」「トンネルの中は寒いから酒を飲むんだ。3人で1升分酔うよ」

「トンネル屋」の3人は屈託なく笑った。3人とも工事に参加するために、統一教会に入信したという。が、井上和博は「日韓トンネル」の説明をされても、夢物語のために聞こえた。「ああ、これは金集めのための工事だ」と思った。

文鮮明教祖が、韓国のソウルで統一教会（世界基督教統一神霊協会）を設立したのは54年。日本では'64年に宗教法人の認可を受け、原理運動が始まった。その後、日本は統一教会にとって最大の資金源になる。'75年からの10年間で、日本から文鮮明教祖のもとに送られた金は2000億円に上るといふ。その殆どが、信者たちがインチキ難民カンパや珍珠売、そして印鑑、壺、多宝塔などの「靈感商法」で集めた金だった。そして、「日韓トンネル」。当時の信者たちは、「靈感商法」で土地を売らせて献金してもらうときなど、日韓トンネルに使われると説明したと証言している。やはりこれも、金集め方便だったのである。

その後、統一教会が力を入れ始めたのは、参加者がひとり140万円の献金を求められる「合同結婚式」だった。'92年、松田淳子らタレント信者が参加して話題を集めたときの参加者は3万組。統一教会発表。合同結婚式はさらに、'95年、'97年、'98年と立て続けに開催されている。手を変え品を替える金集めである。

もちろん、「日韓トンネル」の工事はいつの首に中止された。いまでは、工事現場は廃墟同然になっているという。

